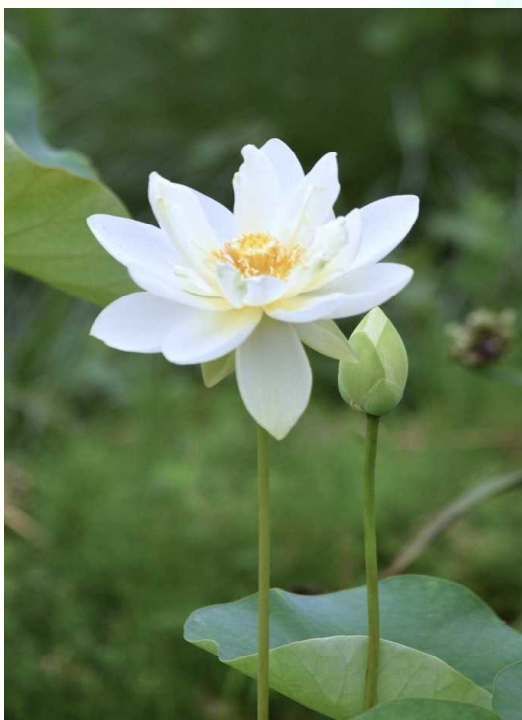




俳句

(2024)



目次

た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句
10 〽	5 〽	1 〽

7月の和名「文月」。梶の葉に和歌をしたためてお祀りする「七夕」の行事にちなんだ「文披月（ふみひらきづき）」が転じたものと言われています。

また、稲穂が膨らむ時期だから「穂含月（ほふみづき）」という説もあります。

7月なのにもう稲穂が膨らむのかと不思議に思うかもしれませんが、実は旧暦7月は現在の8月中旬から9月ごろに該当します。暑いながらも秋の気配を感じるころ。暦の上での文月はそんな季節なのです。

(宇佐美保幸)メール・yasuyuki.usami@gmail.com

再開発西新宿や半夏生
睡蓮の花は三日で遠い国

ぺちゅにあの桃色吐息花畑
友達になつてそれだけラベンダー

どこまでも無駄に絡んで灸花
差別あり屁糞葛も艶めかし
灸花俳句の世界価値ありて
やいとなど虐待恐し灸花

合歓咲いて過疎の町にも理髪店
運命に任せて咲きし合歓の花
合歓の花今日は悲しく雨の中

かけがえのない存在に蓮の花
般若心経すべては空で蓮の花
数千年気候変動古代蓮



新聞はインターネット夏の朝
朝ぐもりなにはともあれ朝散歩

引力を考えてみる夏落葉

向日葵が通過都電に敬礼す
向日葵はポジティブのみに花咲かす
向日葵は秩序守りて日を仰ぐ
江戸時代「花下品なり」日輪草
ひまわりはどこからみてもひまわりだ
向日葵は太陽求め不眠症
なぜ迷路ひまわり畑日本人

ポンポンと咲くダリアにも隠し事
花ダリア花数多く虚空あり
晴れの空ポンポンドリア街散歩

いまさらに誰に愛告ぐこの夏野



夏野なり地球は回り夜は月
死刑ありなにを信じて夏の月

孤独など無縁に集団日日草
人生を平凡非凡日日草

松明のごときモナルダ夏の庭
刈り上げて夏の頭になり
夏の夜の熱気を静めアガパンサス

海の日に山に登りて彼方見る
海の日に列島海岸砂痩せる

生い立ちを話してみるか水中花
日が暮れる待ちて夕顔花開く
努力する何の努力を夕顔は

あるがままたただ強くスベリヒユ



我に欲し生命力や夾竹桃

熱帯夜隣の家のピアノかな
世の中はぐちやぐちや溶けて熱帯夜
熱帯夜クリスピーサンド柔らかく

感情線洪水となる炎暑かな
塩飴が口に良薬炎暑かな

炎昼や有名店に行列が
炎昼や地蔵通りも閑散と
炎昼の道路工事のアスファルト

炎天に蜘蛛の巣あり蜘蛛不在
炎天の地蔵通りは閑散と

酷暑かな宅急便に感謝して
花錆びて葉は焼け焦げる極暑かな



照り返す溽暑の庭に草伸びる

二度三度シャワーを浴びる極暑かな
極暑かな愚痴愚痴愚痴の一日を

豪雨にも百日紅咲く底力
嫉妬すらメラメラ燃ゆるサルスベリ
百日紅映えている日の血圧値

夕立がゲリラ豪雨と大化けす
夕立だ仕方がないと居酒屋へ

遠雷の轟を聴いて終活を
落雷やエリアメールの通知あり



モロロク俳句

モロロクしモノクロ世界半夏生
半夏生風の記憶やモロロクす

モロロクし頑固で暇で布袋草
モロロクし青いトマトを好む吾

絶望の隣にバナナモロロクス
モロロクし匙すべらせるメロンの香

モロロクし独り居あきらめ茄子を焼く
茄子洗ふ手に皺多くモロロクス

モロロクし刻々余生時計草
モロロクしすくみ棒立ち蒲の穂や
モロロクし疎まし赤や紅蜀葵



モ一ロクし夢の逃げ行く明易し
明易し夢は不消化モ一ロクす
世を想ひされどモ一ロクあけ易し
明易やモ一ロク進み南無阿弥陀
モ一ロクし妙に早起き明易し

モ一ロクし背中むずむず灸花
合歡の花吐息おぼろにモ一ロクす
モ一ロクし水は涸れ行く合歡の花

かき氷モ一ロクすれば片頭痛
かき氷過去から声がモ一ロクし
モ一ロクし恨むともなくかき氷

モ一ロクしクラゲとなつてゆらゆらり
モ一ロクし正義仁愛海の日や



死がそこに浮いてモーロク金魚玉
モーロクし青紫蘇一枚揺れにけり
紫蘇もんでモーロクすれど地獄耳

モーロクしまだ追いし夢菲の花
モーロクし魂弛む夏よもぎ

モーロクし生死遠のく夏の海
モーロクし遠くなりけり夏の海
モーロクし眺めるだけの夏の海

モーロクし気分あやしく夏の月
モーロクし内臓ひとつ夏の月
モーロクしいずれ大地に夏の月

今今を生きてモーロク夏の川
脳味噌は白い夏野にモーロクす



モーロクし夏陽炎となり死にきれず
モーロクし夏陽炎と死にきれず

いづこへの道かモーロク夏嵐
モーロクし生きているだけ酷暑かな
モーロクし脳波乱れる酷暑かな
モーロクしすべて断片酷暑かな

モーロクし盛夏睡魔にとりつかれ
炎昼やモーロクさらに加速する

要するにモーロクします油照り
油照りカバと一緒にモーロクす
モーロクし緩めば死ぬる極暑かな

豆乳を冷やしてモーロクまた進む
モーロクし夏の日暮を置き去りに
モーロクすされどブログを夏の朝





モーロクし脳はぐちやぐちや熱帯夜
モーロクしクリスピーサンド熱帯夜
モーロクし紙の重さのひやさうめん



たべもの俳句

皮むいた胡瓜ビジュアル生姜和え
胡瓜もむ男適當塩梅に
天日干しきゆうりパリパリ醤油漬け

酔味噌和えいかにら加え冷や焼酎
オーブンでイサキの塩焼き皮はカリッ

鱻フライぽん酢ジャブジャブ大阪人

ジュースーの野菜の光夏めける
年老いてサイダー泡にむせにけり

朝食に梅干ひとつ常備薬
ケイパーでたこのトマト煮煮込みけり
包まないたこシウマイをおつまみに



とろとろになすと牛肉煮込みけり
梅風味なすと鶏肉重ね煮に

揚げ焼きになすとろのキーマカレー
焼きなすの風味食感みそ汁に
まるごとのピーマン煮もの種までも

そうめんできみしき顔の昼餉かな
つゆとろりオクラを加え素麺を
そうめん豚しゃぶおろしぶっかけて
そうめんを鴨南蛮風に工夫して

マヨラーは冷やし中華にマヨかけて
冷やし麺食べるラー油と納豆で

カラフルにサラダうどんを夏野菜
夏野菜サラダラーメン豚しゃぶで
夏野菜刻んでだしに三食に



夏野菜いろいろさいの目漬けるだけ

浅草になぜか名物泥鰯鍋

東京で初めて食べる泥鰯鍋
どぜうでも食ふかと男浅草へ

年金や土曜鰻は遠き味

朝食の土用蛸に命あり
胸肉でさっぱり夏の生姜焼き

土曜にはレバニラ炒め夏バテに

鰻を焼き野菜たっぷり南蛮酢

CMについていつられ夏カレー

山形の『だし』でさらりと夏ご飯

かき氷変幻自在トッピング

シヤリシヤリと青空削るかかき氷



